



私の3冊

中山大樹

後輩に薦める 2 冊

Donald A. Neumann (原著) P. D. Andrew, 有馬慶美, 日高正巳 (監訳)
筋骨格系のキネシオロジー 原著第3版 医歯薬出版, 2018 年発行

筋、関節の仕組みを、日常の動作を関連付けて学ぶことができる 1 冊となっています。

筋と関節がどのような作用をもっていて、異常が生じた際にどのような変化をもたらすのか、またその変化が動作にどのように現れるのかを構造から系統立てて学ぶことができます。特に、姿勢における筋と関節の役割が粗大な運動の説明だけではなく、個々の関節、筋における役割が説明されており、臨床現場で役立つこと間違いありません。動作を学ぶ者としては必ず読むことをお勧めします。

矢谷令子, 福田恵美子 (編)
作業療法実践の仕組み 改定第2版 協同医書出版, 2014 年発行

作業療法の基本的な進め方を一から学び直せる 1 冊です。作業療法を提供するなかで、作業療法は何を目的として行うのか、対象者のどの部分に働きかけていくのか、実践とその注意点や再確認方法などのプロトコルがわかりやすく記載されています。作業療法の基本が整理されて記載されているため、悩んだときに読み直すことにしています。また、後半には学生教育の際に参考となるカリキュラムやワークシートが豊富に掲載されています。これから臨床に出る方、新人指導や後輩育成を担当される方はぜひ参考にされることをお勧めします。

自分の 1 冊

野中 猛, 野中ケアマネジメント研究会 (著)
多職種連携の技術 (アート) 地域生活支援のための理論と実践
中央法規, 2014 年発行

リハビリテーションとは「人が適する・望ましい状況になる」といいます。対象者のリハビリテーションを遂行するために必要な支援は多岐にわたります。そのため、単一ではなく多くの支援者によるかかわりと、対象者本人・家族の力を高めていく必要があります。その際に必要となるのは皆で力を合わせることです。そこに必須となるものは「連携」です。この 1 冊には、医療・介護だけではなく、対象者や家族、取り巻く地域の支援とどのように手と手を取り合い、目標に向かえばよいのか、に対するヒントがたくさん詰まっています。また、自らのチームビルディングに必要な考え方や手法も多く掲載されています。小手先のかかわりではなく、実践と悩みを通してまとめられた 1 冊、必ず臨床や日常に力となります。ぜひ読んでみてください。

■ なかやま・だいき 作業療法士 17 年目 医療法人社団東北福祉会仙台市介護予防・日常生活支援総合事業 せんだんの丘ぶらすあらい

病院にて訪問看護、訪問リハビリテーションに主に従事していました。現在は介護老人保健施設にて施設内・通所・訪問といった部門を経験後、現在、居宅介護支援事業と介護予防・日常生活支援総合事業通所 A 型の管理者として、対象者の自立支援に携わっています。また所属地域の一般介護予防事業や地域個別ケア会議のアドバイザーを担当しています。地域にて活動するには確固たる専門性と、多職種とどのように共同していくかが重要と感じています。紹介した 3 冊はどの分野においても薦めます。